

連載 第7回

# ルポ 能登半島地震

村山嘉昭

(むらやま・よしあき)  
写真家。1971年、横浜市生まれ。徳島市在住。  
農業系出版社勤務を経て、2005年に独立。  
日本写真家協会会員。

発災から4カ月が経った現在も仮設トイレに頼らざるを得ない地域や避難所が存在している。断水は少しずつ解消しているが、4月1日時点で7800戸余りが断水しており、通水地域であっても支線や敷地内の配管が損傷していたり、下水管の復旧が遅れているところでは基本的にトイレ使用が制限されている。上下水道局だけでなく水道工業者も全国各地から応援に来ているが、依頼件数が多いために対応が追いつかず、液状化によって合併浄化槽が浮き上がる被害も起きている。

発災からしばらくは仮設トイレの絶対数が足らず、使えないと分かっているながらも公共トイレを利用する人が後を絶たなかった。管理者は詰まった便器を放置するしかなく、出入口を封鎖するなどの対応策しかできていなかった。当時は落ち着いて用を足せるトイレが本当に少なかった。

1月中旬、珠洲市で活動する派遣医師に避難所の様子を尋ねると「劣悪な環境」との評価が返ってきたことがあった。発災直後の避難所は寝泊りする場所も土足が当たり前で、トイレを利用した靴で居住空間を歩きまわるといった状況だった。感染症のリスクが高いだけでなく、トイレへ行くのを我慢する人もおり、身体の不調を訴える人も少なくなかったという。必要最低限のトイレ環境は住民の心と身体の健康を保つためにも必要で、災害だからといって疎かにできない問題なのだ。

仮設トイレの設置数が増えるに従い、不十分ながらも状況が改善されていった。全国から被災地に派遣された移動トイレカーやトイレトレーラーの存在も大きかった。これらトイレカーは所有自治体の広報や宣伝にもなっており、見かけるたびに頼もしく思えた。災害がない時はイベントでも活躍するトイレカー。導入する自治体や企業が増えることを期待している。



© 2024 映画「湖の女たち」製作委員会

## 話題の映画



### 不審死があぶり出す人間の罪

『湖の女たち』  
大森 立嗣 監督

ベストセラー作家、吉田修一のヒューマンミステリーの映画化。元女性看護助手をめぐる冤罪事件、薬害エイズ事件、障害者施設での殺傷事件、旧日本軍による戦争犯罪などをモチーフに、人間の本性を鋭く問う作品だ。琵琶湖近くの介護療養施設で100歳の老人が不審死を遂げる。殺人事件とらんだ西湖署の若手刑事・濱中圭介(福士蒼汰)と上司の伊佐美佑(浅野忠信)は、介護士の松本郁子(財前直見)への疑いを強め、強引な取り調べを進める。松本を無実だと感じた濱中は次第にストレスを開。一方、かつての薬害事件を追う週刊誌記者・池田由季(福地桃子)は、2つの事件と旧日本軍731部隊との関連に行き当たり…。5月17日から全国公開。



「道の駅すずなり」の男性トイレ。この後、使用禁止になった(2024年1月14日、珠洲市で撮影)

読者のご意見をお寄せください  
全国保険医新聞のご感想、ご意見等をお寄せください。頂いたご意見は今後の企画の参考にさせていただきます。

## 医師・歯科医師の医療連携を促進するためのツール

# 「糖尿病・歯周病 医科歯科連携手帳」(保団連版)

狙い

- 医科受診の際の歯周病リスクチェック、または歯科受診の際に糖尿病リスクチェックを行うことで、医科歯科双方で糖尿病および歯周病患者をスクリーニングし、治療を促す
- 医師・歯科医師・患者の三者がそれぞれ病状を把握できるようにする

主なコンテンツ

- 歯周病のリスクチェック表…… (1ページ)
- 糖尿病のリスクチェック表…… (24ページ)
- 糖尿病治療リスクとしての歯周病健康評価度…… (10ページ)
- 糖尿病の病状評価…… (11ページ)
- 口腔内の写真、歯周病と糖尿病の関係図…… (4、5ページ)

糖尿病・歯周病医科歯科連携手帳

歯周病・糖尿病医科歯科連携手帳

歯周病が影響する合併症